

先人の様々な足跡から

三八人の卒業生のライフヒストリー

横 須 賀 薫

秋田高校同窓会新先蹤録委員会編

新先蹤録

秋田高校を飛び立った俊英たち

この本は、秋田県立秋田高等学校の同窓会新先蹤録委員会が編集し、春風社から刊行されている。同窓会に非売品として納め配布されたものが、それとは別に装丁のみ変えて市販されることになったと聞く。学校や同窓会と縁のないものにとっても読みごたえのある本になっていると思

い、紹介する。同窓会の役割は何か、と問えば第一にその学校の卒業生の親睦を図ることがあり、第二に母校へ

の応援、特に財政的支援がある。ここまでのことはいはたいの人が承知したり、体験していることになるのだろうが、もう一つ大切な役割に現役生徒・学生に対する教育、校が担う教育の方針、思想を同窓の間で再確認し、現役生にもそれを伝える役割を果たそうとすることである。

この第三の教育・啓蒙の役割は前二者のそれと比較すれば、よほど自覚的な同窓会でなければ表

向きはともかく、実際の活動に反映されることは少ないだろう。秋田高校同窓会はその少ない例の典型、それどころか模範と言ったかまわないだろう。筆者わたくしは関東地方の大都市の学校出身で、同窓会との付き合いもそれなりに維持している方だが、第一、第二の役割に関することはあっても、第三の役割の渦中に身を置くことになったことはない。秋田高校が旧制中学の伝統を引き継ぐ学校だからと言うなら、わたしが学んだ高校も旧制男子中学が新制高校に衣替えした男女共学校だったが、在学中も同窓会会員になってからも、穏やかで優しい、それはそれで居心地のよいお付き合いに終始している。どこがどうちがうのだろうか。



A5変・360頁・2200円
春風社
978-4-86110-872-3
TEL. 045-261-3168

それは母校に明確で、強い教育理念があるかな

いか、そしてそれが在校生にも同窓生にもメッセージとして伝えられているか、伝える努力が続けられているか、その違いだ。この本はまさにそのメッセージが結実したもので、ここに語られる三八人の卒業生（一人は中退生）のライフヒストリーはある時代の校長が生徒に向かって発した一つの問いを抱いて生きた記録でもある。その問いは「汝、何のためにそこにありや」であり、この本の主題となっている。

その校長とは鈴木健次郎で、同期生で秋田県知事となった小畑勇二郎からの強い要請を受けて一九六三年に校長に着任する。そこでこの問いが発せられたという。そこをこの本の中の一人がこう伝えている。

「鈴木は新任式において、『汝、何のためにここにありや』と生徒に問い、一人一人の自主自立を求めた。入学式や卒業式などの節目ごとに、鈴木はこのことを発した。生徒はこの言葉を『秋高語』として事あるごとに遣い、いつの間にか同窓生、父兄の間にも広まっていった。(九二頁)

ものはないと思っ

同じことを、もう一人はこう書き残している。

「先蹤」とは先人の足跡

「高校時代のことは、鈴木健次郎先生の『汝、何のためにそこにありや』という言葉、終生師の教えとしてこれほどの

を指すが、そこには人は様々だということも含意させているのだろうか。(よこすか・かおる「教育学者」)

本題名になっている

「先蹤」とは先人の足跡を指すが、そこには人は様々だということも含意させているのだろうか。(よこすか・かおる「教育学者」)